

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078300169		
法人名	社会福祉法人 立花福祉会		
事業所名	フラワーハイム		
所在地	福岡県八女市立花町下辺春5460番地1 (電話) 0943-37-1613		
自己評価作成日	平成23年6月27日	評価結果確定日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「尊厳」のもと「フラワーハイム」では、お一人おひとりの個性を尊重した支援を目指します。「目配り、気配り、心配り」をモットーに入居者様が、毎日の生活に「生きる楽しさ」や「共に生活」することによって生活に充実感を感じて頂き、このホームを「自分自身の居場所」として頂けるようにサポートしていきたいと思えます。又、職員自ら創意工夫し、安全・衛生面に配慮しながら入居者様の日常生活及び人生経験を重んじ、笑いの絶えない「わが家」のような暮らしをサポートしていきたいと思えます。入居者様の生活スタイルに合わせた自立支援のための介護を提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成23年7月21日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな山中に位置し、特別養護老人ホームを母体とした平屋建ての1ユニットの事業所である。法人の理念である「尊厳」を基として「人として普通に、その人らしく」を事業所の理念としており、個別ケアに力を注いでいる。また、地域のイベントへ参加したり、法人が合同で開催する夏祭り等には地域の多くの方が参加しており、地域とのつながりを大切にしている。職員の意見や要望を聞いたり、職員の資格取得を推奨しており、事業所は働きやすい職場環境づくりに努めている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」や基本方針を踏まえ、各スタッフ協議のもと部門目標を掲げ、朝礼時に唱和を行い、日々確認しながら支援に努めている。	事業所の理念として「人として、普通にその人らしく」を独自に作っている。利用者が地域の中でその人らしく生活を送ることが出来るよう、業務計画に盛り込んでいる。管理者と職員は朝礼やケアカンファレンス時に理念を唱和し、共有と実践に向けて話し合い、日々ケアのサービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課としてホーム周辺地域の散歩を行い、地域の方々と顔見知りになり、交流を図っている。又、地域行事に参加したり、近隣の小学校や中学校からの職場体験訪問を通じ、交流を行っている。	事業所は自治会には加入していないが、地域行事の清掃活動や文化祭に出品したり、観梅会に参加している。事業所主催の夏祭りには、地域に案内のポスターを貼っている。小・中・高校生の職場体験や行政の新人教育研修の受け入れ等行っている。隣近所の人達から花や野菜を頂く等日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の介護教室など協力する体制を取っている。また、研修生や職場体験など要請があれば可能な限り受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回（年6回）の割合で市職員、区長、民生委員、家族、入居者、施設長及びスタッフ参加のもと運営推進会議を開催し、事業報告及び運営状況の報告を行っている。議事録を作成し、家族及びスタッフへ配布し、内容把握に努めている。	運営推進会議は2カ月に1回開催し、サービスの利用状況や評価への取り組みなど報告している。委員からは節電や熱中症の温度差、バスハイクの場所案内など積極的に意見を頂いている。会議で出た意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議を通じ、市の担当者と事業者（現場）の実績やケアサービスにおける課題を協議しながら、協働機関を作っている。また、運営に関する疑問や問題点がある場合は、その都度行政窓口に向いて相談し、助言をもらっている。	行政と事業所は日頃から連携を図っており、お互いに相談できる関係を築いている。また、市の新人職員の研修受け入れも行っている。事業所便りを行政窓口に掲示しており、家族からの問い合わせ等をその都度相談する協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成し、委員会活動や研修会を通じ、自己啓発に努め身体拘束をしないケアについて理解を深めている。万が一事故に繋がる恐れがある場合は、家族への十分な説明を行い、同意のもと、実施している。（同意書作成）	日中は施錠はしていない。法人が合同で身体拘束廃止委員会を設置し、月に1回、拘束・虐待に関する研修会を行い、全職員に研修レポートを提出させる等、意識づけを行っている。外出傾向のある利用者についてはその傾向を把握しており、併設施設や隣近所の人達にも見守り・声かけ・連絡を依頼している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員は、事業所内で虐待が見過される事のないよう注意を払い、防止に努めている。又、研修会参加し、虐待防止について学ぶ機会を持ち、理解を深めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修や外部研修に参加して理解を深め、必要と考えられる入居者に対しては、支援できる体制を整えている。また、運営推進会議などを通じ、啓発に取り組んでいる。	制度に関し利用者・家族には契約時に説明している。内部研修を行い、外部研修にも参加している。テキスト・パンフレット・研修記録等がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、契約書や重要事項説明書に添って、解り易いように十分説明し、不安の軽減や疑問点について納得理解して頂き、同意を得て契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の段階で、本人や家族に対し相談や苦情の窓口について説明行っている。また、重要事項をホーム内に掲示し、日々苦情のない介護を本人及び家族の目線で実践している。	利用者および家族は運営推進会議に出席しており、意見や要望、苦情等述べる機会がある。家族の来訪時に意見や要望を聴くように声かけに努めたり、利用者が日常的に意見や思いを伝えられよう、職員が気持ちを引き出すように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のケアカンファレンスを開催して協議を行い、意見の交換や情報の共有を図っている。又、日頃から提案や不満など気軽に言える職場環境づくりに取り組んでいる。	自己評価は全職員で話し合い、管理者が集約して作り上げている。職員は、研修受講の希望、勤務に対する希望など日常的に運営に対する意見や提案を言い易い環境となっている。保湿器の設置など職員の意見や気づき等運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営者は、職員個々と会話を持ち、日頃の努力や実績、勤務状況等を把握し、向上心を持って勤務できるよう配慮している。又、法人の職務規定より、資格取得や経験年数に応じ、昇給・昇進を行い、職員が意欲を持って働けるよう努めている。尚、必要時の助言を行い、話し合う機会も設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、介護職の経験、資格及び人間性を重視し、希望者には公平な面接を行っている。又、研修会やグループホーム部会への参加等をバックアップしスキルアップに努めている。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所は「働きやすい職場環境」を目指しており、資格取得や勤務しやすいシフトづくりなど力を注ぎ、職員はいきいきと働いている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発、教育に関するテキストを準備し、法人内でも研修会を開催し、人権教育及び啓発に取り組んでいる。	事業所は全職員に対して内部研修で人権教育について学ぶ機会が設けられている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書等を保管している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格や力量に応じた研修を受講出来るよう体制を整えている。又、法人主催の研修会を随時開催し、スキルアップに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、同業者との交流や情報共有に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みがあった場合には、事前訪問やホームに来訪して頂き、説明及び本人の望まれる事、不安な点などを伺いながら受け止めるよう努めている。相手の立場に立って傾聴する事で信頼関係を築き、本人及び家族の思いを理解し、ご自身を支えるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望がある際には、随時見学を受け入れており、パンフレットに添って説明し、お困りの点や不安な事を傾聴するように努めている。老人保健施設などに入居されている方については、事前に訪問面談し、本人のニーズを把握し、担当職員より情報提供を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを充実させ、ADL等の情報を共有し、必要なサービスの提供に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のペースでの一方的な支援は行わず、自ら意欲的に参加されるような雰囲気作りに努めている。声のトーンや態度など注意し、支援を行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご家族とは密に連絡を取り、入居者様の思いや状態、生活の様子を理解して頂き、御家族と共に支えるように努めている。又、定期的にホーム便りを発行している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪時には、ゆっくりと面会して頂けるよう努めている。又、馴染みの場所へのドライブの機会を提供したり、知り合いの方がデイサービスや特別養護老人ホームを利用される際には、訪問して面会を行っている。	利用開始時、利用者の基本情報を聴取する際、本人および家族等から、馴染みの人や場所について聴取している。利用者の希望でドライブで知人に会いに行ったり、知人である隣接の特養老人ホームやデイサービスの利用者を訪問する等の機会を支援したり、法人全体で関係継続できるよう努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃のコミュニケーションや様子観察により、入居者の関係を把握し、極力トラブルの招かないよう支援を行っている。又、発生時には両者の思いを汲み取りながら仲裁し、周りの入居者様に不安を与えないよう配慮し、場の雰囲気を変えるなどの支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了については、現在、入院・転院後に死亡されたケースしかなく、契約終了による家族からの依頼はない。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の方の希望意向を大切に、把握困難な場合は、本人の視点に立ち、思いを汲み取るように努めている。その為日頃より、コミュニケーションを十分に図り、本人本位の支援が出来るよう努めている。	利用者一人ひとりの思いや希望を日々の会話の中で把握している。意思疎通が困難な利用者に対しては、家族からの聞き取りや利用者の表情や行動から理解するよう努めており、職員間でも利用者一人ひとりの思いや意向について、その都度話し合っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族よりこれまでの暮らしぶりや嗜好を含めた生活歴を伺い、センター方式に取り組み、職員間での情報の共有を図っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事、可能性を見出すように努め、ケース記録により状態把握し、毎月のケアカンファでは、モニタリングを兼ねて総合的に現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケアカンファレンスを通じ、本人や家族のニーズに合った課題やケアのあり方について話し合い、現状に即したケアプランを作成、振り返りも行っている。	担当の職員が本人及び家族からの希望や要望、かかりつけ医からの意見をまとめてプラン原案を作成し、月1回のケアカンファレンスで他の職員とも話し合い、その結果をケアマネージャーがまとめている。3か月毎に短期目標をモニタリングして、長期目標は6か月毎に見直ししながら、ケアプランを作成している。状態変化があれば、その都度プランの見直ししている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録には、生活の様子・ケアの実践結果・気づきを記入し、職員間での情報を共有しケアに反映し、ケアプランの見直しに参考している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医での受診等、本人・家族の状況、要望に応じて柔軟な対応に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部・地域の方の施設見学、市役所職員の職場研修の受け入れ、又、三味線や尺八の演奏等地域のボランティアの受け入れ体制を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の往診があり、本人家族の希望があれば、馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう援助を行っている。	月2回の訪問診療を受けている利用者が大半であるが、入居前からのかかりつけ医の受診を希望すれば、その受診も可能であり、適切な医療を受けられるように支援している。利用開始時に家族と受診介助や情報伝達方法について話し合いをしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より主治医及び看護師に相談助言を仰いでいる。また、併設の特別養護老人ホームの看護師と連携を行い、緊急時に対応できる体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、家族同意のもと情報提供を行っている。入院中もスタッフが交代で面会に行き、関わりを継続して病院機関とも連携を図り、短期間の退院に繋がるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明・確認している。又、終末期をホームで安心して療養されるように、ホームで可能な事、困難な事、不安な事を率直に話し合い、同じ思いで家族やかかりつけ医と連携を図りながら支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、利用時や状態に応じて、その都度、家族・医師・職員等で方針を話し合いながら支援している。重度化や終末期の方針は明文化されていない。契約時に「緊急の場合に関する同意書」に家族から同意をもらっている。	早い時期から重度化や終末期のあり方や対応方針について、明文化に努めてほしい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケアカンファレンスに於いて、マニュアル確認と周知徹底を行っている。法人主催の研修会や外部研修会に参加し、初期対応や応急手当についての知識を学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の法人全体の避難訓練を実施し、避難経路、場所、方法及び消火訓練を実施している。又、ケアカンファレンスに於いて、マニュアルの確認、周知徹底を行っている。又、災害に備え、非常食や飲料水もホーム内に準備している。	年2回母体施設とともに防災訓練を実施しており、地域住民への呼びかけも行っている。今秋は、消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方等の訓練の実施を予定している。非常用の飲料水、食料品及び毛布等は事業所内に備蓄されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応を基本に、本人の思いや気持ちを尊重しながら、誇りやプライバシーを損なう事のないよう声掛けや対応を行っている。個人情報に関しては、法人全体で研修計画に取り組み、意識向上に努めている。	管理者は、内部研修やミーティング、日々のケアの中で職員の意識向上に努めるように指導しており、職員もプライバシーに配慮したケアの実践に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心掛け、日々の生活の中で表情や会話から希望や願いを察し、支援を行っている。レクリエーションを行う際には、個人の希望を優先した取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして大まかな1日のスケジュールで組んでいるが、一人ひとりの生活のリズムに合わせて臨機応変に対応し、利用者様の意思を尊重しながら対応を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については家族に準備して頂き、更衣の際には本人の好みで選んで頂くようしている。訪問美容を利用される際には、事前に希望を伺い、満足されるよう配慮している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が立てた献立に基づき、利用者様の好みに合わせアレンジを行っている。調理の下ごしらえや料理の味見、引き膳など利用者様のできる事をいかした支援を行っている。調理の匂いや音など五感に働きかけ、スタッフも一緒にテーブルを囲む事で食事が楽しみになるよう心掛けている。	材料が法人から配布され、事業所内で料理している。職員と利用者は一緒にテーブルを拭いたり、引膳、野菜の皮むきなど行っている。職員は同じ内容の食事を同じテーブルで会話をしながら、利用者の食事のペースに合わせて楽しく食べている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立表を元に食事提供を行い、毎食ごと摂取量をチェックして把握している。又、水分補給については、各テーブルにお茶を準備し、何時でも飲んで頂けるようにしている。摂取量の少ない方については、こまめに声掛けを行ったり、嗜好に合わせた飲み物にて対応行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた方法で口腔ケアを実施している。毎週土曜日には、就寝時に義歯を預り、洗浄行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、介助が必要な方の排泄のパターン、間隔、兆候を把握し、誘導行っている。失禁の際には周囲に配慮し、迅速に対応している。又、オムツを使用されてある方でも希望される場合は、ポータブルトイレにて排泄して頂いている。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、利用者一人ひとりに応じたオムツ等を使用している。利用者の表情や仕草から排泄のサインを読み取り、排泄誘導をさりげなく行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を確認し、主治医の医学的管理も含め、対応している。又、食事の際には、野菜や食物繊維の物を多く摂って頂くよう心がけ、心身の状態に応じて、散歩や体操等の適度な運動機会の提供支援を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に応じた湯量、湯温にて対応行っている。入浴拒否の際には、声掛けや誘導の工夫、職員を変えての対応を行いながら、スムーズな入浴へ向けて取り組んでいる。	毎日入浴できる体制を取っている。入浴を拒否される利用者には、声かけのタイミングを工夫する等しているが、難しい場合は無理強ひせず翌日に入浴していただいている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し、不眠の方には、なるべく眠剤に頼らず声掛けや見守りを行う事で支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況表を作成し、見やすい位置に置いて把握している。又、処方変更の場合には、パソコンや服薬管理表にて把握し、薬の効能、副作用については専門書を準備して確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野や生活歴を把握した上で、家事手伝いや畑仕事などの役割を持って頂いている。野菜作りでは、収穫を楽しみにされている。又、バスハイクなど気分転換の機会を提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の状態や希望に応じ、日々の散歩や畑仕事等戸外に出る事を意識して支援を行っている。	ホーム外周の散歩や季節ごとにコスモス畑、芝桜、つつじ等の花見の名勝にドライブに出かけている。ドライブの途中に馴染みの場所に立ち寄る等の工夫もしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを認識しているが、認知症の進行に伴い、金銭管理が困難になられており、御家族と相談の上、事務所で預かりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用の際には、代行を支援している。年賀状や暑中見舞いなど書かれる機会を提供している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の空間には、利用者様にとって不快な音や光がないよう配慮している。又、調度品や物品など家庭的で温かい雰囲気のものを選び、季節の花を飾るよう心掛けている。	玄関から続くフロアにゆったりと寛げるソファが置かれている。行事毎の写真や利用者と一緒に制作した作品が壁に掛けられおり、共用空間で落ち着いて過ごせるよう工夫されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームには、ソファやテーブル・椅子等を配置し、利用者様同士交流できるよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた生活用品や衣類等を持ち込んで頂き、馴染みの物の中で、自分らしく生活して頂けるようにし、環境変化による認知症の進行に配慮している。	利用者それぞれが思いに応じた家具や調度品を置き、家族写真や飾り物等を壁に掛ける等居心地良く過ごせるように配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等要所に手すりを設置し、浴室には、シャワーチェアや滑り止めマット等設置し、安全面に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない